

「豆で食育！小学校ビーンズ・プロジェクト」について

全国豆類振興会（公財）日本豆類協会

豆・豆製品関係業界では、10月13日を「豆の日」と定め、毎年、この日を中心に豆類に関する様々な普及・啓発活動を展開しています。平成26年度は、その中核的イベントとして、豆の栽培から豆料理の調理に至る一連の過程を小学校児童に体験してもらい、その状況を新聞紙上で紹介する「豆で食育！小学校ビーンズ・プロジェクト」を実施し、小学生、学校・食育関係者及び一般消費者の豆類・豆料理に関する知識の啓発と関心の高揚を図るとともに、「豆の日」の認知度向上に資することといたしました。今回は、このプロジェクトの概要及び途中経過をご紹介します。

主催：全国豆類振興会、公益財団法人日本豆類協会（共催）

後援：農林水産省

協力：株式会社朝日新聞社、株式会社朝日学生新聞社

協賛：豆・豆製品関係14団体

実施内容

1. 協力校の選定

平成26年4月1日（火）～4月22日（火）にかけて、全国の小学校にこのプロジェクトへの参加希望を募り、4月下旬に参加希望のあった40校の中から以下の10校を選

定し、協力を依頼しました。

小学校名	学年	学級数	児童数
福島県相馬市立山上小学校	6年	1	13
茨城県筑西市立養蚕小学校	5年	2	53
東京都新島村立新島小学校	3年	1	21
東京都小平市立学園東小学校	5年	2	59
福井県坂井市立長畝小学校	3年	2	62
長野県茅野市立豊平小学校	5年	2	37
静岡県富士市立元吉原小学校	3年	2	47
京都府宇治市立岡屋小学校	5年	5	100
島根県出雲市立日御碕小学校	1・2年	1 (複式)	3
鹿児島県十島村立悪石島小学校	3・4年	1 (複式)	2

2. 栽培キットの送付

4月下旬に、協力校に対し3種類のいんげんまめ（大正金時、福うずら及び雪手亡）の種子、豆栽培用化成肥料、根粒菌（菜豆用まめぞう）、栽培マニュアル等からなる豆栽培キットを送りました。なお、播種用の種子は、品種ごとに栽培規模最大10㎡程度と想定し、必要な量を（地独）北海道立総合研究機構農業研究本部十勝農業試験場の研究部豆類グループから提供していただきました。

3. 栽培・観察学習の実施と報告

小学校の担当教諭に、5月初旬頃には学校内の花壇・菜園等に豆を播種し、児童による豆の栽培・観察学習を開始するととも

に、豆栽培の節目（播種・発芽、開花、収穫）ごとに、児童の栽培・観察への取組み状況、反応等について報告していただくよう依頼しました。

4. 出張授業及び調理実習の実施

協力校のうち1校については、豆に関する出張授業と豆料理の調理実習を行うこととし、東京都小平市立学園東小学校において平成26年9月17日（水）に実施する予定です。

5. 新聞紙面における各校の取組状況の紹介

各校からの報告等に基づいて、このプロジェクトの展開状況を、朝日小学生新聞及び朝日新聞の紙面において紹介することとし、平成26年6月23日（月）に第1回「種まき・出芽編」、7月28日（月）には第2回「開花編」として、両紙に記事が掲載されたところです。

これらの新聞記事においては、児童が播いたいんげんまめはどの小学校においても順調に出芽して開花・着莢に至っていること、土を押し上げて出芽し、その後もぐんぐん生長していく豆の生命力に感動していること、福うずらの赤、大正金時のピンク、手亡の白と色とりどりの花の可愛らしさに感嘆するとともに、ちゃんと花が咲いてくれたことに安堵したこと、そのあとに小さな莢ができているのを発見して大喜びしていること、収穫を楽しみにしていることな

ど、日々の栽培・観察の状況が紹介されました。

さらに、「豆の日」当日である10月13日（月）には、第3回「収穫、出張授業・調理実習編」として、両紙に記事を掲載する予定です。

6. 食育効果の確認

プロジェクトに参加した小学校児童に対し、豆・豆料理への知識、興味・関心等について事前・事後に意識調査を行い、食育の効果等を把握・確認することとしています。



出芽状況を観察する相馬市立山上小学校の6年生児童



開花・着莢状況を観察する新島村立新島小学校の3年生児童